

2026 年 9 月 9 日

各 位

JMS、JAXA 宇宙実験で QCD[※]に続き 2 件目の採用

～医療・再生医療分野で培った技術が「きぼう」日本実験棟での実験に貢献～

株式会社ジェイ・エム・エス(本社:広島県広島市、代表取締役社長:桂 龍司、以下「当社」)は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)が開発する国際宇宙ステーション(ISS)「きぼう」日本実験棟用の細胞培養実験装置において、当社の開発技術を応用した部材が新たに採用されましたので、お知らせいたします。2024 年 5 月の QCD[※]に続き、今回が 2 件目の採用となります^{*1}。

※ QCD : Quick Connect Disconnect 素早く安全に装置を接続および切断する仕組み

JAXA は 2023 年度より「きぼう」船内利用フラッグシップミッションとして、国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟を利用した、歴史に残る成果の創出を目指し、いくつかの研究テーマに取り組んでいます。それらの研究テーマの1つで「細胞培養実験用自動溶液交換器具 1 型」^{*2}が使用され、JAXA がその装置を開発するにあたり、一般競争入札を通じて、流体を扱う部材であるコネクタ及び貯液バッグの供給企業として、当社が選定されました。

■採用された製品・技術

＜供給製品＞

- ① 閉鎖式コネクタ(液体の安全な接続・切断用)
- ② EVA製貯液バッグ(培養液・廃液の貯蔵用)
- ③ EVA製接続チューブ(液体の送液用)

＜採用技術＞

【閉鎖システム技術】①

抗がん薬等の調製で使用する医療用閉鎖式薬剤移注システムの技術を応用。薬剤取扱時の安全性を高めることを目的に開発されました。

【EVA*素材加工技術】②③

細胞凍結保存バッグ(再生医療等製品の製造に使用される非医療機器)で培った技術を応用。細胞サンプル保存環境(-196℃)の耐久性や貴重なサンプルを無駄なく採取するバッグ加工技術が、再生医療分野の研究で採用されています。

* EVA: エチレン-酢酸ビニル共重合体



■今後の展開

JAXA は「きぼう」日本実験棟の民間利用拡大を推進しています。今回採用された当社技術が組み込まれた開発品は、より多くの研究者に利用される機会となることを期待しています。引き続き医療及び科学技術の発展に貢献してまいります。

Press Release

【参考資料】

■ 当社技術の実績

【閉鎖式薬剤移注システム】

2014年：医療機器として販売開始

2023年：JAXA一般競争入札「定型化細胞培養装置クイックコネクトディスコネクト（QCD）の製作」落札

2024年：上記グランド・モデル及びフライト・モデル落札

2024年：グッドデザイン賞受賞

2024年：令和6年中国地方発明表彰「会長賞」受賞

2026年：令和8年度全国発明表彰「日本商工会議所会頭賞」受賞

【細胞凍結保存バッグ】用途：再生医療や細胞治療に用いる細胞の凍結保存

2021年：再生医療分野向けの細胞凍結保存容器として販売開始（非医療機器）

2021年：グッドデザイン賞「グッドデザイン・ベスト100」受賞

■ 参考情報

*1 JAXA 一般競争入札「定型化細胞培養装置QCDグランド・モデル及びフライト・モデルの製作」落札のお知らせ

*2 「細胞培養実験用自動溶液交換器具1型」

<https://humans-in-space.jaxa.jp/biz-lab/experiment/pm/dcc/>（参照：JAXAウェブサイト）

本リリースに掲載されている将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、社会情勢の大きな変化などさまざまな潜在的リスクや不確実性が含まれております。当情報につきましては発行日時点のものであり将来的に変更される可能性のあることをご承知おき下さい。

また、医療機器や医薬品の情報が含まれていますが、これらは報道関係者、株主・投資家等の皆様を対象にした情報であり、顧客誘引や医学的アドバイスを目的とするものではありません。

お問い合わせ先 経営戦略室 経営企画グループ （電 話） 082-243-9059
(e-mail) pub-bpd@jms.cc